

各関係機関の長 殿

鹿児島県病虫害防除所長

令和6年度病虫害発生予察情報について

このことについて、発生予報第2号（5月）を発表したので送付します。

鹿児島県病虫害防除所

〒899-3401

南さつま市金峰町大野 2200

TEL 099-245-1081 (代表)

099-245-1157 (直通)

099-245-1149 (FAX)

テレホンサービス

鹿児島 099-296-6430

296-6431

ホームページアドレス：<https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujoshou/index.html>

(3月から新しいアドレスになりました)

メールアドレス：nousou-boujo@pref.kagoshima.lg.jp



農薬の安全使用に努めましょう

農薬安全使用五つの柱

1. 使用する人の安全 使用者自身の健康管理, 安全使用
2. 作物に対する安全 適期, 適正防除で薬害防止
3. 農産物に対する安全 消費者へ安全な農産物を供給
(農薬安全使用基準の遵守)
4. 環境に対する安全 周辺環境への影響防止
(周辺住民等への危被害防止)
(河川, 湖沼, 海などへの汚染防止)
(養蚕, 養蜂などへの危被害防止)
5. 保管管理の安全 保管管理の徹底で事故防止

農薬ラベルを確認しましょう

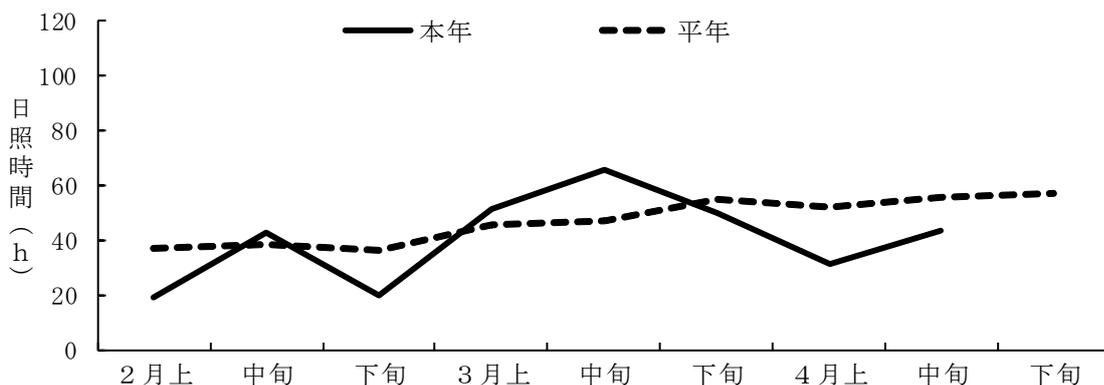
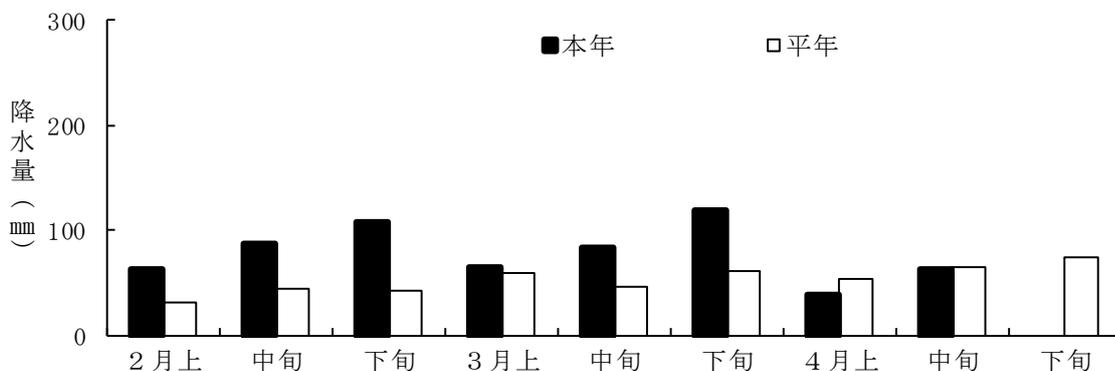
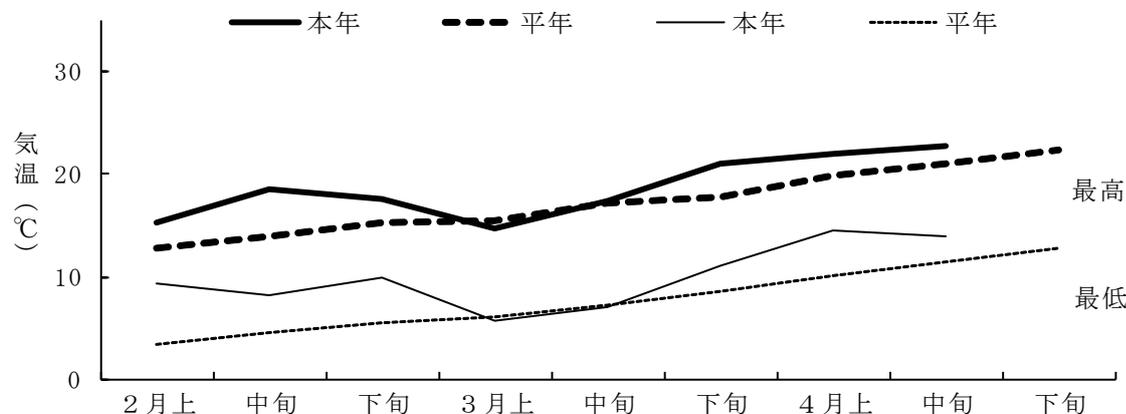
農薬の飛散(ドリフト)にも注意しましょう

【気象概況】

I. 向こう1か月の予報（4月27日から5月26日） 令和6年4月25日 鹿児島地方气象台 発表

要素	地域	確率（%）			概要
		低い(少ない)	平年並	高い(多い)	
気温	九州南部	10	20	70	九州南部・奄美地方とも、気温は高く、降水量は平年並みか多い。九州南部は日照時間は平年並みか少なく奄美地方はほぼ平年並み。
	奄美地方	10	10	80	
降水量	九州南部	20	40	40	
	奄美地方	20	40	40	
日照時間	九州南部	40	40	20	
	奄美地方	30	40	30	

II. 1～4月の気象情報（鹿児島地方气象台 観測点：加世田）



【病 害 虫 発 生 予 報 の 概 要】

作 物		病 害 虫 名	発 生 量	
			現 況	予 報
普通 作物	早期水稲	葉いもち	並	並
野 菜	トマト	灰色かび病	やや少	やや少
		うどんこ病	少	少
	ピーマン	斑点病	やや多	やや多
		うどんこ病	並	並
		アザミウマ類	並	やや多
花 き	キク（施設）	ハダニ類（県本土）	やや多	多
		アザミウマ類（県本土）	並	やや多
果 樹	カンキツ	そうか病（県本土・熊毛地域）	並	並
		〃（奄美地域）	やや少	やや少
		かいよう病（県本土・熊毛地域）	やや多	多
		〃（奄美地域）	並	並
		ミカンハダニ（県本土・熊毛地域）	並	並
		〃（奄美地域）	並	並
茶 樹	チャ	炭疽病	並	やや多
		チャノコカクモンハマキ	並	並
		チャハマキ	並	並
		チャノホソガ	多	多
		チャノミドリヒメヨコバイ	並	やや多
		チャノキイロアザミウマ	少	やや少
		カンザワハダニ	並	並

【病害虫発生予報】

I. 普通作物

1. 早期水稲

(1) 葉いもち

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県内全域

(イ) 発生量 並

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：並

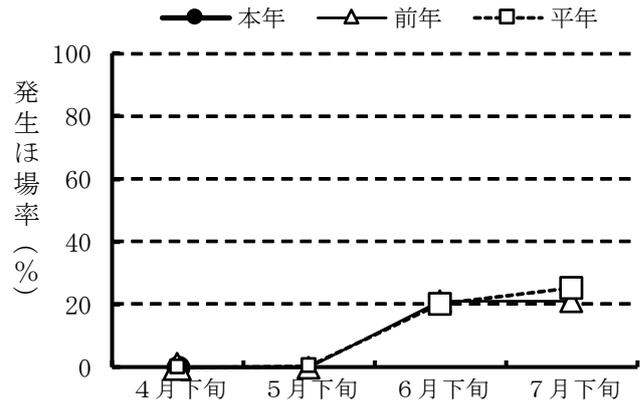
発生ほ場率0%（平年0%）：並

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 本病の常発地や前年の多発ほ場では発生に注意し、発生を認めたら直ちに防除を行う。

(イ) 置き苗は発生源となることが多いので、補植後、速やかに処分する。

(ウ) 窒素肥料の多施用は発生を助長するので、避ける。



いもち病の発生ほ場率（早期水稲）

防除に関する今月の留意事項

1. サツマイモ基腐病

〈採苗〉

(1) 採苗時に用いるハサミは、こまめに消毒（火炎滅菌または丁寧な水洗と拭き取り）する。

(2) 採苗は、株の地際から5cm以上切り上げて行う。

(3) 苗消毒は、必ず採苗当日に行う。なお、消毒液は必ず使用する当日に調整したものを用いる。

〈本ぼ〉

(1) 排水が不良なほ場では、植付前に耕盤破碎（地下排水の促進）や明渠の施工（表面排水の促進）などの対策を行う。定植前にはほ場の排水機能（明渠等）とは場に隣接する排水路の点検を必ず実施し、ほ場からの排水口は排水路に確実に接続する。

(2) 農薬散布は、発病前からの予防散布に努める。また、発病株は見つけ次第除去する。

サツマイモ基腐病の生態と防除に関する詳しい情報は、鹿児島県 (https://www.pref.kagoshima.jp/ag06/documents/documents/74570_20240315133011-1.pdf)、農研機構 (https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/stem_blight_and_storage_tuber_rot_of_sweetpotator04.pdf) をご覧ください。



鹿児島県

サツマイモ基腐病防除
対策マニュアル(第4版)

令和6年3月改訂



農研機構

サツマイモ基腐病の
発生生態と防除対策

(令和4年度版)

Ⅱ. 野 菜

1. トマト

(1) 灰色かび病

ア 予報内容

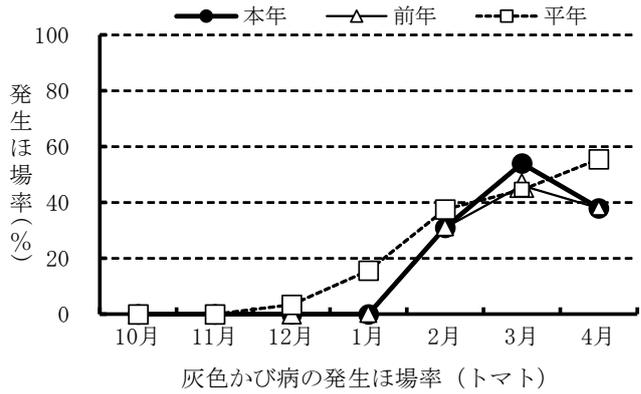
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 やや少

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや少
発生ほ場率38%（平成55%）
：やや低い（－）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) ハウスの通風換気を十分に行い，過湿にならないよう努める。
- (イ) 果実部やへたの付近に付着する花卉は本病の発生源となるので，こまめに除去する。
- (ウ) 発病葉や発病果実はビニール袋等に入れてほ場外へ持ち出し，適切に処分する。
- (エ) 同一系統薬剤の連用を避け，作用性の異なる薬剤（RACコード参照）のローテーション散布を行う。



(2) うどんこ病

ア 予報内容

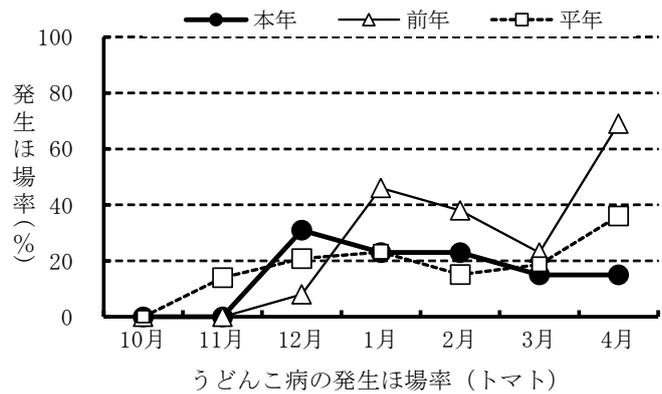
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 少

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：少
発生ほ場率15%（平成36%）
：低い（－）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 通風採光をよくし，老化葉は努めて除去する。
- (イ) 薬液は葉裏に十分かかるよう散布する。
- (ウ) 同一系統薬剤の連用を避け，作用性の異なる薬剤（RACコード参照）のローテーション散布を行う。



2. ピーマン

(1) 斑点病

ア 予報内容

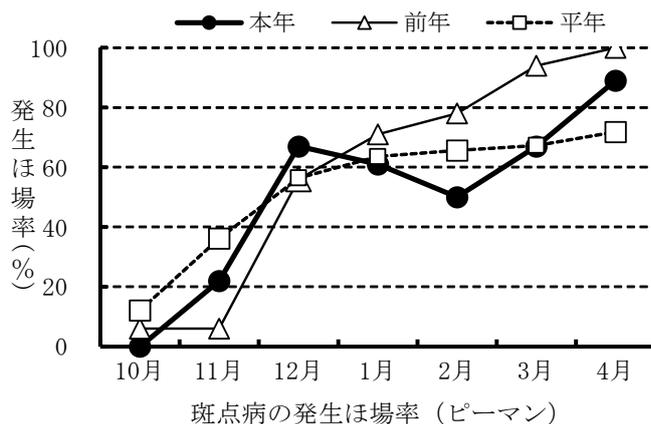
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや多
発生ほ場率89%（平年72%）
：やや高い（+）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 多湿条件下で発生しやすいので、ハウス内の通風換気に努める。
- (イ) 発病葉はできるだけ持ち出して処分し、菌密度の低下を図る。
- (ウ) 成り疲れなどによる草勢低下により発生しやすいので、適正な肥培管理に努める。
- (エ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤（RACコード参照）のローテーション散布を行う。



(2) うどんこ病

ア 予報内容

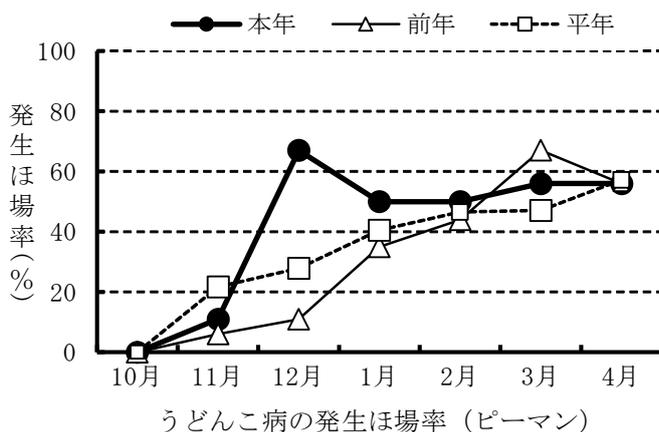
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 並

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：並
発生ほ場率56%（平年57%）：並

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 発病葉は早めに除去し、ハウス外に持ち出して処分する。
- (イ) 草勢低下は発生を助長するので適正な肥培管理に努める。
- (ウ) 薬液は下位葉や葉裏に十分かかるよう散布する。
- (エ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤（RACコード参照）のローテーション散布を行う。



(3) アザミウマ類

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：並
発生ほ場率50%（平年44%）：並

(イ) 気象予報

気温：高い（+）

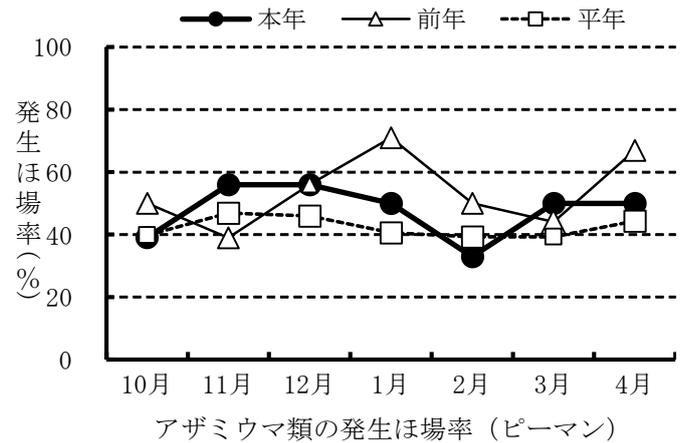
ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) ハウス開口部等に粘着トラップ

を設置し、発生状況を把握して適期防除に努める。

- (イ) カブリダニ類等の天敵を放飼しているほ場では、天敵に影響の少ない農薬を選択する。

- (ウ) 花や新芽の中など、薬液のかかりにくい場所に生息するので、農薬散布は丁寧に行う。



.....

防除に関する今月の留意事項

1. トマト黄化葉巻病（TYLCV）、キュウリ／メロン退緑黄化病（CCYV）、 キュウリ／メロン黄化えそ病（MYSV）

本年4月の調査において、トマト黄化葉巻病（発生ほ場率15%、平年2%）の多発生を、3月の調査において、キュウリ退緑黄化病（発生ほ場率40%、平年37%）とキュウリ黄化えそ病（発生ほ場率10%、平年8%）の平年並の発生を認めた。これらの病原ウイルスはタバココナジラミやミナミキイロアザミウマにより媒介される。今後これら媒介虫の活動が活発となり、ウイルスを保有した成虫がハウスの外に飛び出すので、以下の防除対策を徹底する。

- (1) 媒介虫がハウス外へ飛び出すのを防ぐため、栽培終了まで防除を徹底するとともに、防虫ネットは継続して設置しておく。
- (2) 栽培終了後は抜根し、植物が十分枯死するまで、必ず蒸し込む。

2. イチゴのハダニ類

<本ぼ>

栽培終了後の本ぼから苗床への侵入を防ぐために、以下の防除対策を徹底する。

- (1) ハウス外への拡散を防ぐため、栽培終了まで防除を徹底する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため同一系統薬剤の連用を避け、気門封鎖剤など作用性の異なる薬剤（RACコード参照）のローテーション散布に努める。
- (3) 栽培終了後は抜根し、ハウスを確実に密閉して、植物が十分枯死するまで、必ず蒸し込む。

<苗床>

本ぼでの発生は苗からの持ち込みによることが多いので、苗床で以下の防除対策を徹底する。

- (1) 気温の上昇とともに急激に増殖するので、管理作業時に注意深く観察し、初期防除に努める。
- (2) 寄生葉や摘葉した葉は、ほ場外に持ち出し処分する。
- (3) 薬剤の防除効果を高めるため、下葉かきを行ってから、葉裏にもかかるよう丁寧に散布する。
- (4) 薬剤感受性の低下を防ぐため同一系統薬剤の連用を避け、気門封鎖剤など作用性の異なる薬剤（RACコード参照）のローテーション散布に努める。

3. イチゴ炭疽病<苗床>

イチゴ炭疽病は風雨や灌水のはね上がりにより感染が広がる。また、気温の上昇に伴い発生が多くなり5月上旬から感染好適期となる。健全な苗を確保するためにも、以下の防除対策を徹底する。

- (1) 雨よけ、排水対策及び防風対策を徹底する。灌水はできるだけ水滴が小さくなる灌水チューブ等を用い、適正な水管理に努める。
- (2) 古葉は潜在感染している場合が多いので、新葉展開後は降雨時を避けて摘葉する。
- (3) 生育不良の親株や萎凋した苗は、早急に除去し、ほ場外で適切に処分する。
- (4) 農薬による予防散布は10～14日間隔で行い、株元、ランナー、葉裏などに十分量を散布する。
発生が認められた場合は散布間隔を短縮する。
- (5) 地床育苗では、ビニールマルチ等で降雨等による土のはね返りを防止する。
- (6) 育苗ほ場周辺や育苗ベンチ下の除草を徹底する。

4. バレイシヨの収穫後の耕種的病害対策

※令和5年度技術情報第17号（12月26日付け）参照

収穫残さが次作での疫病、菌核病、軟腐病及びそうか病等の一次伝染源になるので、収穫後は以下のほ場管理を適切に行う。

- (1) 収穫後の発病茎葉やいも、くずいも等は、ほ場外に持ち出し、適切に処分する。
- (2) 疫病、菌核病の発生が多く、残さの持ち出しが困難なほ場では、天地返しにより残さを土中深く埋没する。
- (3) イネ科牧草等の作付けによる輪作に努める。

5. その他野菜等の残さ処理について

露地野菜等の残さは、次作に対して様々な病害虫の伝染源（発生源）になる。多くの作物に感染する菌核病や軟腐病等には、特に注意が必要である。長期間放置してほ場の病原菌密度や虫数を増加させないように、収穫終了後はできるだけ速やかに残さ処理を行う。

- (1) 発病茎葉・果実を含め、収穫後の残さは、ほ場外に持ち出し、適切に処分する。
- (2) ほ場外へ残さの持ち出しが困難なほ場では、複数回の耕耘により残さを早めにすき込み分解を促す。

Ⅲ. 花き

1. キク

(1) ハダニ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土（施設）

(イ) 発生量 多

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：やや多

発生ほ場率40%（平年26%）

：やや高い（+）

(イ) 気象予報

気温：高い（+）

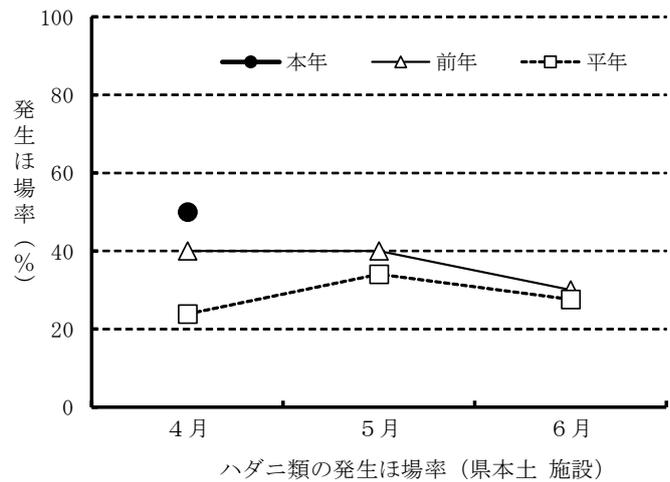
ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 出入口や前作での発生場所近く等でスポット状に発生する機会が多いので、ほ場全体をよく見回り、早期発見と早期防除に努める。

(イ) 薬液は葉裏までよくかかるように散布する。

(ウ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤（RACコード参照）のローテーション散布を行う。

(エ) ほ場内及びその周辺の除草に努める。



(2) アザミウマ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土（施設）

(イ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：並

発生ほ場率30%（平年27%）：並

(イ) 気象予報

気温：高い（+）

ウ 防除上注意すべき事項

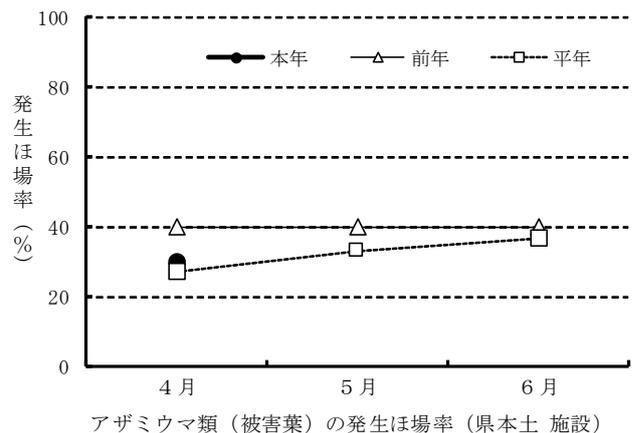
(ア) アザミウマ類の発生動向を把握するためには、出入口や開口部付近での青色粘着シートの設置が有効である。なお、クログハナアザミウマの誘引効率はやや低いと思われる。

(イ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤（RACコード参照）のローテーション散布を行う。

(ウ) クログハナアザミウマは主に中下位葉に寄生しているため、薬液は下葉の葉裏までかかるよう丁寧に散布する。

(エ) アザミウマ類はキクえそ病（TSWV）、キク茎えそ病（CSNV）を媒介するので、ほ場への侵入防止と早期発見および早期防除に努める。

(オ) ほ場内及びその周辺の除草に努める。



IV. 果 樹

1. カンキツ

(1) そうか病

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県内全域

(イ) 発生量

県本土・熊毛地域 並

奄美地域 やや少

イ 予報の根拠

<県本土・熊毛地域>

(ア) 調査結果(春葉) 発生量：並

発生ほ場率 3% (平年 3%)：並

発病葉率 0% (平年 0.1%)：並

<奄美地域>

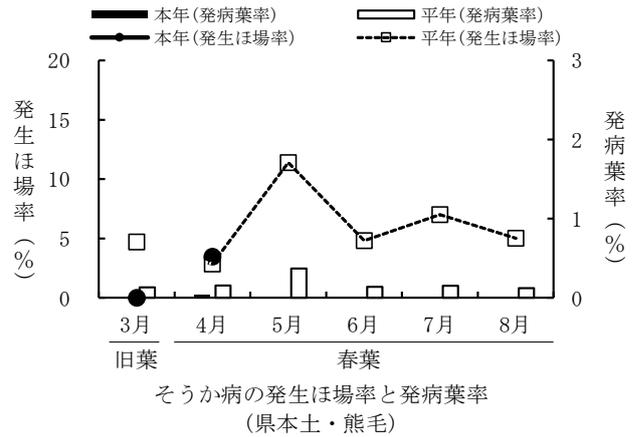
(ア) 調査結果(春葉) 発生量：やや少(－)

発生ほ場率 0% (平年 6%)：やや低い(－)

発病葉率 0% (平年 0.1%)：並

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 開花期以降のデランフロアブルとマシン油乳剤の近接散布は薬害を生じる恐れがあるので
間隔は30日以上あける。



(2) かいよう病

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県内全域

(イ) 発生量

県本土・熊毛地域 多

奄美地域 並

イ 予報の根拠

<県本土・熊毛地域>

(ア) 調査結果(春葉) 発生量：やや多

発生ほ場率 10% (平年 3%)：高い(+)

発病葉率 0.3% (平年 0.1%)：高い(+)

発生程度は低い(－)

(イ) 気象予報

気温：高い(+)

降水量：平年並みか多い(+)

<奄美地域>

(ア) 調査結果(春葉) 発生量：並

発生ほ場率 0% (平年 3%)：並

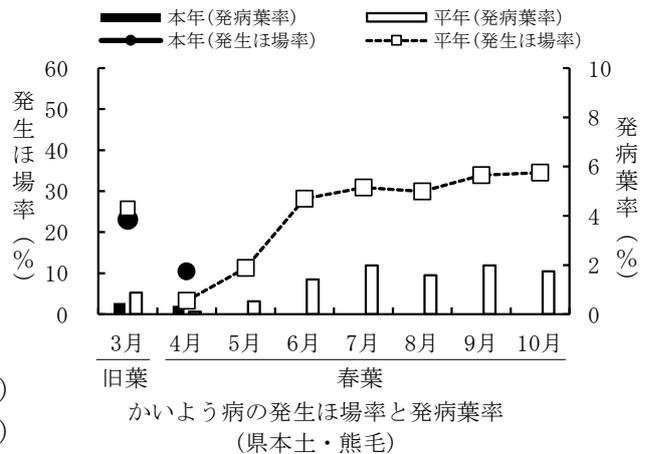
発病葉率 0% (平年 0.03%)：並

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 春葉が硬化する前までに予防散布に努める。

(イ) 銅水和剤の使用にあたっては、薬害を軽減するために炭酸カルシウム剤を必ず加用する。

(ウ) 強風雨等による葉や果実への傷口発生を防ぐため、防風林、防風樹の管理に努める。



(3) ミカンハダニ

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県内全域

(イ) 発生量

県本土・熊毛地域 並

奄美地域 並

イ 予報の根拠

<県本土・熊毛地域>

(ア) 調査結果(春葉) 発生量：並

発生ほ場率 5% (平年 7%)：並

寄生葉率 0.2% (平年0.4%)：並

<奄美地域>

(ア) 調査結果(春葉) 発生量：並

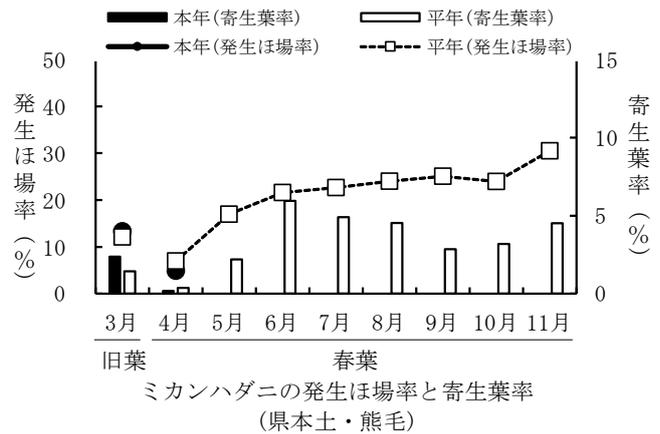
発生ほ場率 14% (平年 11%)：並

寄生葉率 0.1% (平年 0.2%)：並

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 1葉当たり雌成虫数0.5~1.0頭(寄生葉率で30~40%)を目安に防除する。

(イ) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、春期~夏期にかけては、マシン油乳剤(97%)を主体とした防除を行う。



V. 茶 樹

1. チャ

(1) 炭疽病

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 (令和5年10月): 並

発生ほ場率61% (平年55%): 並

1㎡当り病葉数8.7枚 (平年11.1枚): 並

(イ) 気象予報

気温: 高い (+)

降水量: 平年並みか多い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) やぶきたなどの一番茶の摘採残葉で炭疽病の発生がみられ、本病に弱い品種や多発ほ場では二番茶萌芽～1葉期に防除する。

(イ) 多発状態の続く茶園は、二番茶後に整・剪枝 (深刈り等) により伝染源を除去する。

(2) チャノコカクモンハマキ, チャハマキ

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生時期 チャノコカクモンハマキ 早い

チャハマキ 早い

(ウ) 発生量 チャノコカクモンハマキ 並

チャハマキ 並

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果

	チャノコカクモンハマキ	チャハマキ
【巡回調査】		
発生量	並	並
発生ほ場率	0% (平年1%): やや低い	0% (平年3%): やや低い
㎡あたり虫数	0頭 (平年0.03頭): やや少ない	0頭 (平年0.05頭): 並
【知覧町フェロモントラップ】		
誘殺数 (3月1半旬~4月4半旬)	315頭 (平年188頭): やや多 (+)	745頭 (平年401頭): やや多 (+)
越冬世代の発蛾ピーク	早い	早い

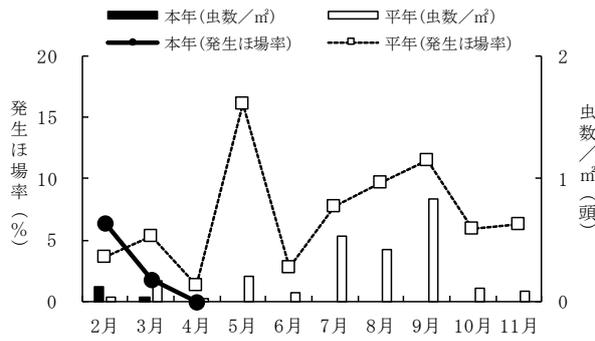
(イ) 気象予報

気温: 高い (+)

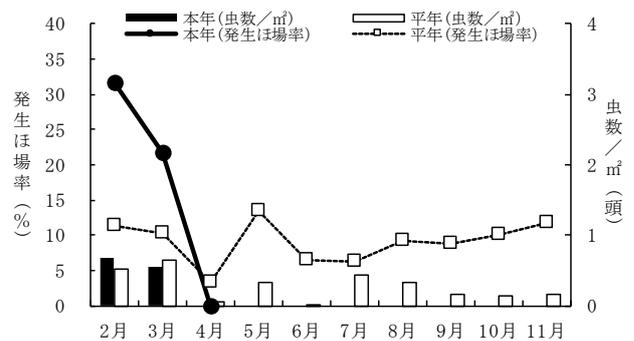
ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 防除は、摘採後できるだけすみやかに行う。農薬の使用にあたっては、収穫前日数を守り、収穫前の隣接茶園へのドリフトがないように十分注意する。

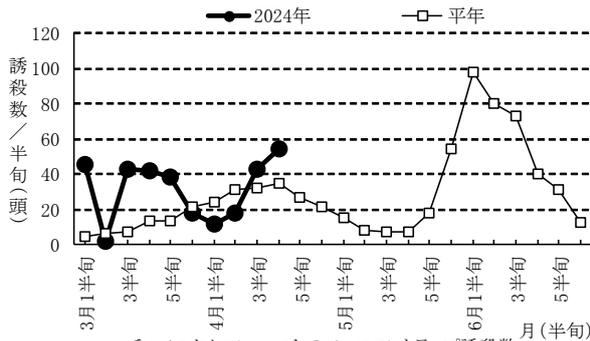
(イ) ジアミド系薬剤に対する感受性が低下している地域があるので、地域の栽培暦に従って農薬を選択する。



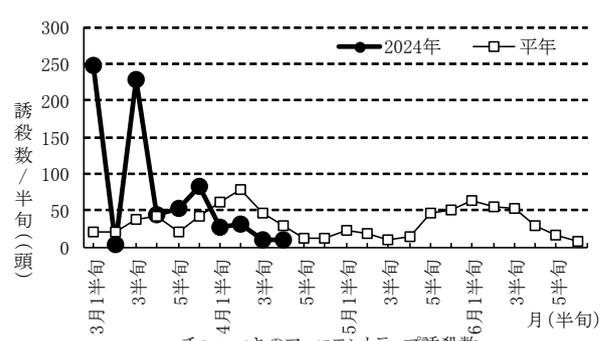
チャノココクモンハマキの発生ほ場率と㎡当たり虫数



チャハマキの発生ほ場率と㎡当たり虫数



チャノココクモンハマキのフェロモントラップ誘殺数
(南九州市知覧町)



チャハマキのフェロモントラップ誘殺数
(南九州市知覧町)

(3) チャノホソガ

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 発生時期 早い
- (ウ) 発生量 多

イ 予報の根拠

【巡回調査】

- (ア) 調査結果 発生量：多
- 発生ほ場率 17% (平年 9%)：多
- ㎡当たり巻葉数 0.3枚 (平年0.1枚)：多

【知覧町フェロモントラップ】

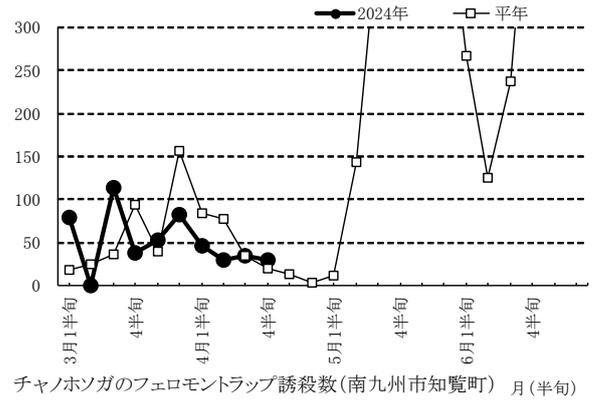
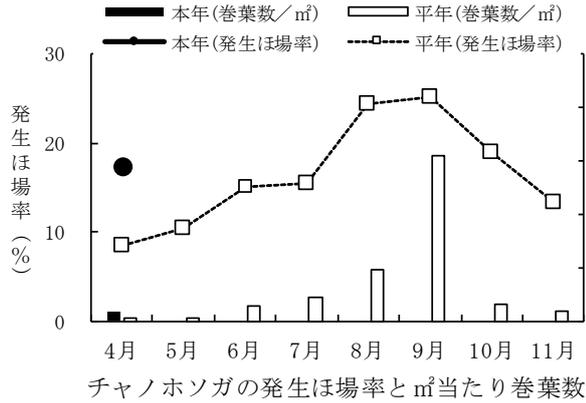
- 誘殺数 (3月1半旬~4月4半旬) 508頭 (平年588頭)：並
- 越冬世代の発蛾ピーク： 早い

(イ) 気象予報

- 気温：高い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 第一世代成虫の発生時期と二番茶の新芽生育期が重なる園では被害が生じやすいことから、二番茶の萌芽~1葉期までに薬剤防除を行う。また、散布時は安全使用基準を遵守し、ドリフトがないように十分注意する。
- (イ) IGR剤及びジアミド系薬剤に対する感受性が低下している地域があるので、地域の栽培暦に従って農薬を選択する。



(4) チャノミドリヒメヨコバイ, チャノキイロアザミウマ

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 発生量 チャノミドリヒメヨコバイ やや多
チャノキイロアザミウマ やや少

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果

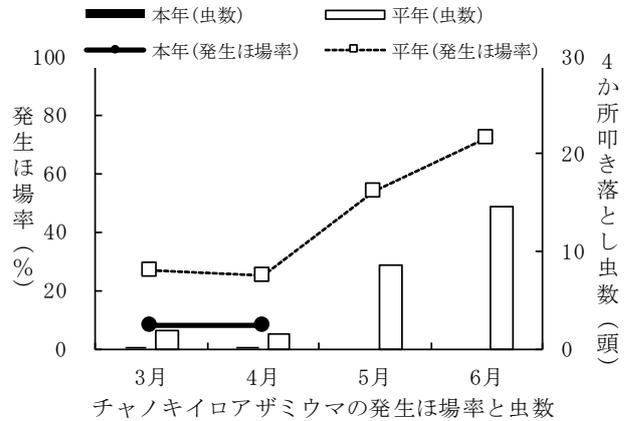
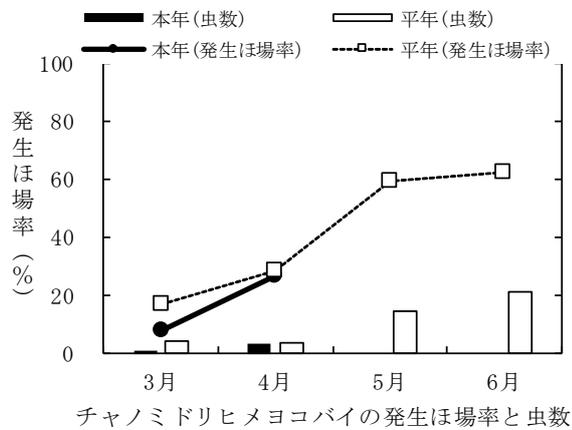
	チャノミドリヒメヨコバイ	チャノキイロアザミウマ
【巡回調査】		
発生量	並	少
発生ほ場率	26% (平年 28%) : 並	8% (平年 25%) : 低い
虫数(4か所たたき落とし)	0.4頭(平年0.4頭) : 並	0.1頭(平年1.4頭) : 少

(イ) 気象予報

気温 : 高い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 薬剤防除は二番茶及び三番茶の萌芽～1葉期に実施する。



(5) カンザワハダニ

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生量 並

イ 予報の根拠

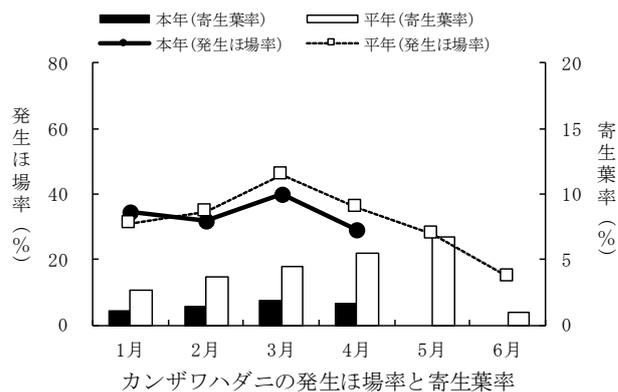
(ア) 調査結果 発生量：並

発生ほ場率 29% (平年 36%) : 並

寄生葉率 1.6% (平年5.5%) : 並

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 発生が多いほ場では、一番茶の刈番茶摘採後に防除する。



防除に関する今月の留意事項

1 農薬の使用について

農薬の使用にあたっては、収穫前日数を守り、収穫前の隣接茶園へのドリフトがないように十分注意する。

農薬の適正使用について

農薬は以下の点に注意して適正に使用しましょう。

1. 使用前にラベルや説明書をよく読む。
決められた対象作物・使用時期・回数・使用濃度等を守り、記載された用途、方法以外では使用しない。
2. 使用する農薬にあわせて、適切な防除衣、保護具（マスク・手袋など）を着用する。
3. 散布前には防除器具の整備・点検をする。
4. 体調がすぐれないときは散布作業を避ける。
5. 散布時には農薬がほ場の外に飛散したり、流出したりしないよう十分注意する。
6. クロルピクリン剤は、住宅地および畜舎に隣接するほ場や、土壌が乾燥しているときは使用しない。注入後は直ちに穴をふさぎポリエチレンフィルム等で10日以上被覆する。
7. 毒性が強い農薬は、施設内や噴霧のこもりやすい場所では使用しない。
8. 使用期限の切れた農薬、不要になった農薬および使用済みの空容器は適正に処分する。
9. 農薬は食品と区別し、鍵をかけて保管する。
10. 農薬の散布記録をつけておく。

「予報の根拠」の記載方法

- 調査結果の発生量は、前月の巡回及び定点調査による。
- 野菜類共通病害虫の発生量は、各作物での発生量やトラップ調査結果等に基づいた総合評価。
- 調査結果や気象予報等の末尾の（＋）、（－）は、発生量の増加、減少要因を示す。
- 気象予報は、向こう1か月の長期予報。
- 平年値は原則として過去10年間の平年を用いている。